

会 議 録（概要）

会議の名称	令和８年度 第１回弥富市総合計画・総合戦略推進会議
開催日時	令和８年９月１日(火) 午後２時００分～３時２０分
開催場所	みなともまちなか交流館３階 ホール
出席者及び欠席者	出席者：東嶋とも子（会長）、入江容子（職務代理）、伊藤恵造、柿内賢治、春日真樹子、長尾学、児玉日佐美、渡辺里江、古市祐康（順不同） 欠席者：伊藤肇章、釜田公良、柄谷友香（順不同） 事務局：市長、副市長、教育長、企画部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、建設部長、教育部長、議会事務局長、総務部参事、総務課長、税務課長、収納課長、市民課長、市民協働課長、まちなか交流課長、福祉課長、児童課長、土木課長、下水道課長、企画政策課長、企画政策課職員３名
会議内容	１ 開会 ２ あいさつ ３ 委員紹介 ４ 議題 （１） 新しい地方経済・生活環境創生交付金（旧デジタル田園都市国家構想交付金）事業の効果検証について （２） 企業版ふるさと納税寄附活用事業の実施報告について （３） その他 ５ 閉会
会議資料	・ 次第 ・ 弥富市総合計画・総合戦略推進会議委員名簿 ・ 資料１－１ 新しい地方経済・生活環境創生交付金（旧デジタル田園都市国家構想交付金）事業一覧・効果検証シート（令和７年度分） ・ 資料１－２ 令和８年度地域未来交付金 採択事業一覧 ・ 資料１－３ 国の地方創生交付金の変遷 ・ 資料２ 令和７年度まち・ひと・しごと創生寄附活用事業（企業版ふるさと納税寄附活用事業）実施状況 ・ 弥富市総合計画・総合戦略推進会議設置要綱

発言者	会議の概要（議題・発言内容等）
事務局	1 開 会 ＜欠席委員 連絡、資料の確認＞
市長	2 あいさつ ＜市長あいさつ＞
会長	＜会長あいさつ＞
委員	3 委員紹介 ＜各委員あいさつ＞
事務局・担当課長	4 議題 （4（1）、（2）、（3）については、会長により進行） （1）新しい地方経済・生活環境創生交付金（旧デジタル田園都市国家構想交付金）事業の効果検証について ＜資料 1-1・1-3 について、事務局及び担当課長より説明＞
入江委員	＜質疑＞ 「弥富金魚水族館（仮称：YaToMi AQUA）整備事業」における KPI について、観光協会 YouTube のチャンネル登録者数が掲げられている。実績値として登録者数が 0 というのが続いているが、どのような体制となっているのか。また、検討していることはあるのか。
まちなか交流課長	観光協会の YouTube については、チャンネルを開設しておらず、担っていける人材が不足している。YouTube 以外の発信の場として、地方テレビ局等に YaToMi AQUA への取材依頼等があれば 1 件も断ることなくお受けしている。そのような場において、YaToMi AQUA をはじめとしたまちなか交流館、金魚の PR を行っているのが現状である。
入江委員	「この指とまれ！ 弥富の人・情報・想いをつなぐ “YTM. Meeting：ヤトミーティング” プロジェクト」について、KPI として YTM. Meeting プロジェクトに参画・参加する市民の人数が設定されているが、減少傾向にあるのが気にかかる。1 年単位での数に一喜一憂する必要はないが、代替わりがあるのか。また、継続して担っていられる方の育成等が行われているのか。

市民協働課長	また、「弥富まちなか交流館市民活動拠点やとみっけベース整備事業」について、会議前に施設を拝見させていただいたが、市民の方の利用も多く非常ににぎわっていると感じられた。その中で、KPI としてやとみっけベースが仲介して、市民の相談事が解決につながった件数が設定されているが、行政関わった案件があれば例として紹介してほしい。 YTM. Meeting プロジェクトに参画・参加する市民の人数については、もともと有志の集まりで始動したところから、2024 年度に法人化し本格的な活動がされている。その中で、2025 年度の実績値は 15 名であり、法人化前と比べると人数が減少している。 また、市民の相談事に行政関わった案件については、お子さまの発達に不安があるため、どこか相談できる場所はないかというご相談に対して、最終的にはご自身で団体を立ち上げ、相談できる場を設けてはいかがかという案内をさせていただいた。 その結果、ご自身で団体を立ち上げられたという事例があった。様々な相談に応じて、解決へのつなげ方に工夫が必要であると感じている。
会長	高齢者であると、システム化が進むことで不安に感じられる方が多くいると考えられる。高齢者とのかわりが深い職に就かれている方などでそのような視点からご意見等があれば発言願います。
古市委員	高齢者の方で、スマートフォンなどを持たれているが、電話に出るだけという方もいる。それでも、やらざるを得ないという時代になってきたというに感じている。 特に、外食などに行くと支払いがタッチパネルという所が増えてきているため、高齢者であってもやらざるを得ない状況である。わからないからやらないではなく、やっていかなければ時代に取り残されてしまうであったり、やるという選択肢しかないからまずは聞いて覚えようという意識が、私の肌感覚ではあるが芽生えてきていると感じている。 また、お孫さんからスマートフォンの使用方法について教えてもらっているというようにほっこりするような報告も受けている。
春日委員	KPI について、「弥富金魚水族館（仮称：YaToMi AQUA）整備事業」を例に挙げると、入館者数が 2025 年度の目標値が 7,288 人に対して、実績値が 29,215 人である。2026 年度の目標値が 7,988 人であるが、2025 年度の実績値を鑑みると実績値が大きく上回ると予想される。そこで目標値を変えることはできないのか。
まちなか交流課長	当初の設定から変えることはできない。
春日委員	満足度調査を行っている事業があるが、満足度調査の中身や利活用の方法はどのようにしているのか。

税務課長	満足度調査について、調査票の中に自由記載欄を設けている。そこに記載されている意見を確認し、反映していければと考えている。
会長	全体的な話で、KPI の概要について説明してほしい。
事務局	行政において、指標というのは様々な考え方があり、インプット指標やアプトプット指標、アウトカム指標と言われているが、国の交付金を使用するに当たり、どのような目的で事業を行い、どのような効果が得られるのかということを検証していくために KPI（重要業績評価指標）を各事業についていくつか設定し、毎年度達成状況を確認しながら、事業の方向性を定めている。 KPI の設定については、各事業を立ち上げる際に目標の達成に向け必要となりうる指標及び目標値を定めている。 そのため、初めに設定した KPI を途中で変更してしまうと、進捗状況を正確に把握できなくなってしまう。 そのため今回の事業については、国の交付金が有効に活用されているか、KPI を設定し、毎年度達成状況を確認しながら効果検証を行っている。
会長	令和 7 年度の 2 事業における外部有識者からの評価について、今出されたご意見等を踏まえつつ、最終的には事務局と整理・調整し、取りまとめるというような形でご一任いただいてよろしいか。
委員	（「異議なし」の声あり）
事務局	<資料 1－2 について、事務局より説明> <質疑等なし> （2）企業版ふるさと納税寄付活用事業の実施報告について <資料 2 について、事務局より説明> <質疑等なし> （3）その他 <質疑等なし>
事務局	

	5 閉 会
--	-------